

## 小岩金網株式会社

<http://www.koiwa.co.jp>

技術開発部 齋藤 茂 [sg.saitou@koiwa.co.jp](mailto:sg.saitou@koiwa.co.jp)

### 1. 小岩金網のあゆみ

小岩金網は、昭和 43 年 12 月に(現)代表取締役社長である西村専次の個人経営により小岩金網製作所を創業し、各種金網の製造を開始しました。その 1 年半後(昭和 45 年 3 月)に資本金 2,000 千円で東京都葛飾区高砂に小岩金網株式会社を設立されました。

昭和 50 年頃から法面関連工事は全国的に景観を重視した緑化ブームとなり、今までのモルタル吹付工事や種子散布工事から品質の高い技術(安全・安定)が求められ厚層基材吹付工や現場吹付法枠工(フリーフレーム工法)+緑化工が行なわれるようになりました。それらの工事に伴い、ラス金網張り材(ひし形金網)や法枠型枠材(クrimp金網)の使用量が増加し製造工場を岩手県・北海道・愛知県・岡山県・熊本県に開設して法面保護・緑化工法関係資材の製造・販売を拡大して来ました。

平成 11 年 7 月には東京浅草に本社を移設し法面資材をはじめ土木資材から建築資材および各種フェンス関係(バックネット・動物園の檻など)の設計施工まで行なうと共に自社製品の開発(厚層金網・壁面緑化パネル・防獣柵など)や各社工法の製品開発を行なって来ています。

### 2. より安定した吹付生育基盤を目指して

昭和 48~9 年に賭けて厚層基材吹付工(岩盤緑化)が開発され、岩盤地は勿論のことモルタル吹付面やコンクリート吹付面まで景観を重視した緑化工が行なわれるようになって来ました。当時の緑化工は、洋芝を主体とする早期全面緑化が行なわれ、根系の力により生育基盤を維持する工法でもありました。また、一般法面に比べ地山からの水分の供給が制限され、乾燥害を防止するため吹付け厚さをより厚みのある生育基盤に造成することで崩落し易い基盤にもなりました。これらの問題に対し、より安定した生育基盤を維持させることを目的に開発された金網が厚層金網(写真-1・2)であります。



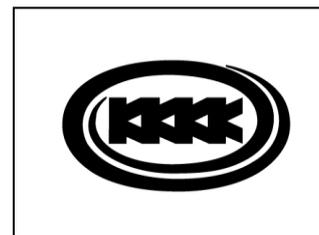
写真-1 厚層金網 (KN-075)



写真-2 厚層金網設置状況



ロゴマーク



社章

### ●厚層金網(意匠登録第 1149092 号)の特長

- ①網が立体構造に織られているため生育基盤材の崩落を防止します。
- ②網の厚さで生育基盤厚の管理がし易くなります。
- ③線径が太く強固な厚層金網は、地山との一体化が早期に長期間維持することが出来ます。

### 3. 森林表土利用工・自然侵入促進工にも・・・

最近、外来植物や交雑遺伝子の汚染等を防止するため無播種施工が増加しています。特に、生物多様性に配慮した重要な地域(国立公園特別地域など)では森林表土利用工や自然侵入促進工が施工されることが多くなって来ています。これらの工法は、埋土種子潜在表土の品質や施工時期に左右されることから生育基盤の長期安定がより一層求められて来ています。

潜在表土を利用する工法では、吹付・撒出し基盤の中に数%~50%程度混入させることが多いことから厚層基材吹付工(有機質系)に比べ造成基盤は崩落し易くなります。よつて、吹付・撒出し基盤はより安定した生育基盤が求められます。また、自然侵入促進工でも、施工地に隣接する環境・施工時期・植物種類等により植物の生育に左右され、長い間法面が裸地化されていることが多くなります。裸地化した基盤材を長時間放置すると基盤材の風化や接着材の劣化により基盤の崩落を起こし易くなり飛来する種子の定着が難しくなります。それらの原因を防止する補助材として、厚層金網のご使用をおすすめ致します。

#### 表-1 会社概要と連絡先

商号	小岩金網株式会社
創業	昭和 43 年 12 月 25 日
設立	昭和 45 年 3 月 19 日
所在地	東京都台東区西浅草三丁目 20 番 14 号
資本金	225,835 千円
従業員	300 名
代表者	代表取締役社長 西村専次
事業内容	各種金網の製造・販売 法面保護工法関係資材の製造・販売 各種フェンス関係の設計・施工 メッシュアートの設計・施工
連絡先	TEL.03-5828-7685 (代) FAX.03-5828-7688